

コスタリカ内政・外交主要事項（2017年10月～12月）

2017年10月～12月の当国内政・外交主要事項は以下のとおり。

【要旨】

内政

- 2018年2月の大統領・国会議員選挙に向けて、10月に選挙の公示が行われた。しかしながら、度重なる汚職スキャンダルや解消されない財政赤字の問題から政府への不信が高まり、選挙に対する盛り上がりは見られない。このような状況下で、現政権に厳しい批判を行うPINのフアン・ディエゴ・カストロ候補に支持が集まってきており、PLNやPUSC等の主要政党の候補は苦戦を強いられている。
- 10月、熱帯性低気圧「ネート」がコスタリカ全土に襲来。死者を出すなど甚大な被害を与えた。

外交

- 任期終了を控えたソリス大統領の外遊は少なくなっている一方、ゴンサレス外相は積極的に外遊を続けており、特にSICAやイベロアメリカなどの地域機関の会合に多く参加。
- ニカラグアとの間に抱える三件のICJ係争の判決が2018年1月に出される見通し。コスタリカが隣国との間で国境を画定していないのは、ニカラグアとの国境のみとなっており、判決の結果が注目されている。

I 内政

1 選挙関連

(1) 選挙の公示

10月4日、選挙最高裁判所(TSE)において2018年大統領・国会議員選挙の公示式典が行われた。同式典には、ソリス大統領も出席し、ソブラド選挙最高裁長官が選挙の公示を宣言した。選挙では、各政党から立候補した候補者の中から、大統領、副大統領2名及び57名の国会議員を選出する。選ばれた候補者は、2018年5月から2022年4月までの任期となる。

(2) 副大統領候補の決定

10月、主要政党が副大統領候補を以下の通り選出。財政赤字が当国にとって喫緊の問題であることから、多くの政党が経済学者を副大統領候補に選んだ。特にPINのアジャレス氏はチンチージャ政権下で、財政改革のコンセンサス作りに貢献した著名な学者。他方、PUSCのカマチョ氏は自由貿易の推進者であり、両者の経済学者としての経験は卓越している。

●与党・市民行動党(PAC)

【大統領候補】カルロス・アルバラード

【第1副大統領候補】エプシー・キャンベル（国会議員）

【第2副大統領候補】マルビン・ロドリゲス・コルデロ（教育者，労働組合長）

●国民解放党（PLN）

【大統領候補】アントニオ・アルバレス

【第1副大統領候補】エドガル・アジャレス・エスナ（チンチージャ前政権期の財務大臣）

【第2副大統領候補】ビクトリア・ガンボア・ロス（ジャーナリスト，がん患者支援のためのアナ・ロス財団理事長）

●キリスト教社会統一党（PUSC）

【大統領候補】ロドルフォ・ピサ

【第1副大統領候補】エドナ・カマチョ・メヒーア（経済学者）

【第2副大統領候補】マックス・ウマニャ・イダルゴ（エンジニア）

●国家統合党（PIN）

【大統領候補】フアン・ディエゴ・カストロ

【第一副大統領候補】マリア・セシリア・モレイラ（弁護士）

【第二副大統領候補】マイケル・バルガス（医者）

（3）各候補者の支持率の変化

大統領・国会議員選挙が2018年2月に迫る中，PINのフアン・ディエゴ・カストロ候補が注目を集めている。現政権への過激な批判で注目を浴びる同候補は，徐々に支持率を伸ばし，12月に実施された世論調査によると，支持率ではトップの位置を占めている。他方，有力候補であったPLNのディサンティ候補は徐々に支持率を落とし，2位につけている。僅差でPUSCのピサ候補が後に続いている。しかしながら，どの候補者も第一次投票で選出されるために必要な得票率の40%を獲得できる見込みは少なく，決選投票が行われる可能性が非常に高いと見られている。特筆すべきは，誰に投票するかを決めていない人が，選挙まで2ヶ月あまりとなった12月現在でも世論調査回答者の3割以上を占めているということである。度重なる汚職や解消されない財政赤字の問題などから，国民の政治不信や政治への無関心を引き起こしていると考えられる。

2 熱帯低気圧「ネート」

10月4日から5日にかけて，熱帯低気圧「ネート」が当国を襲来。死者は14名にも及び，約11,361名が避難を余儀なくされた。北部グアナカステ地方，太平洋岸中央部・南部，首都圏郊外を中心に全国各地に洪水や土砂崩れの被害が起きた。河野外務大臣からゴンサレス外相宛にお見舞いのメッセージを発出した。

3 地デジ移行の延期決定

11月3日，コスタリカ政府は，2017年12月15日に予定されていたアナログ放送から日伯方式の地デジ放送への移行期日の延期を決定した。理由としては，

2018年2月の大統領選挙の情報に関する市民のアクセス権の確保の必要性、地デジへの移行啓発活動の市民への浸透不足、放送事業者が地デジ・アンテナを設置しているイラス火山山頂の地滑りのリスク、現放送事業者の準備不足などが挙げられた。さらに、ハリケーン・オットーと熱帯低気圧ネートが当国の貧困地域を中心に損害を及ぼしたことも考慮された。国内では依然として30%の国民が無料のアナログ放送に依存している。

4 ロドリゲス財務次官の辞任

12月1日、中国セメント事件において職権乱用の疑いで検察の取り調べ・家宅捜索を受けていたフェルナンド・ロドリゲス財務次官が辞意を表明。ロドリゲス次官はいかなる法をも破っていないことを主張しつつも、裁判への準備に時間を割かなくてはならないこと、また自身の留任が財政改革交渉の妨げになることを恐れたことなどから辞任を決意したと釈明した。

II 外交

1 二国間関係

(1) 対ニカラグア関係

I C Jにおいて係争中のコスタリカ・ニカラグア間領海線画定問題の判決時期が2018年1月末に決まった。同訴訟は、太平洋側及びカリブ海側の領海線を画定するための訴訟であり、ニカラグアがカリブ海と太平洋で石油探査のために調査区画の設置に踏み切ったことを受けて、2014年2月に開始された。コスタリカ側は、ニカラグアが自国の利権確保のため国際的に宣言した水域の一部は、コスタリカの領海内にあると主張した。

(2) 対中国関係

(ア) 10月31日、アラヤ・サンホセ市長が中国を訪問。「北京市・サンホセ市友好都市協定」が署名され、今後の留学生の交換、観光促進、文化交流、貿易拡大などを通して両国政府の交流を深めていくことが約束された。

(イ) 11月22日、中国との外交関係樹立10周年を記念し、コスタリカ外務省が「コスタリカ・中国間貿易及び投資関係」フォーラムを開催。湯恒駐コスタリカ中国大使及びソラーノ外相代行が参加したほか、フォンセカ貿易省次官とペイルーテPROCOMER理事長も参加し、二国間貿易の重要性について意見を交わした。

2 ソリス大統領の外遊

(1) パナマ訪問

12月14日、SICA首脳会合に出席するためにパナマを訪問。

3 ゴンサレス外相の外遊

(1) チリ訪問

10月11日、第1回SICA・チリ対話・協力フォーラムに参加するため、チ

りを訪問。ムニョス・チリ外相との会談を行った。初等教育，多様化教育及び中等教育の証書・修了書の相互認証協定に署名した他，二国間の技術協力や環境に対する取組について議論を交わした。

(2) 豪州訪問

10月17日，ゴンサレス外相は，シドニー，キャンベラ等の豪州の都市を訪問。外相会談を行った他，経済界の要人と会談を行った。更に，在豪州コスタリカ大使館の開館式に出席した。

(3) アラブ首長国連邦訪問

11月23日，アラブ首長国連邦軍副司令官でもあるザード・アブダビ皇太子の招待を受け，ゴンサレス外相がアラブ首長国連邦を公式訪問。アブダラー・外相と会談を行い，政治協議メカニズム協定に署名した。また，企業関係の要人と会談を行い，不動産・観光・再生可能エネルギー等の分野における投資について議論を交わした。さらに，在アラブ首長国連邦コスタリカ大使館の開館式に参加した。

(4) アゼルバイジャン訪問

11月29日，アゼルバイジャンを公式訪問し，アリエフ大統領表敬，メメディヤロフ・アゼルバイジャン外相との会談を行った。両会談においては，様々な分野における二国間協力と投資を推進していくことで一致した。また，在アゼルバイジャン・コスタリカ大使館の開館式に出席した。

(5) グアテマラ訪問

12月7日，イベロアメリカ外相会合に参加するためグアテマラを訪問。詳細は下記4(2)参照。

(6) イタリア訪問

12月13日，第8回イタリア・ラテンアメリカ会議出席のため，イタリアを公式訪問。アルファード・イタリア外相と会談を行い，多国間主義の推進の重要性，コスタリカにおけるイタリアとの協力プロジェクト，投資の可能性，二国間の貿易成長などの重要テーマについて話し合った。

4 S I C A及びその他地域機構関係

(1) 第1回S I C A・チリ対話・協力フォーラム

10月11日，チリのサンティアゴで，第1回S I C A・チリ対話・協力フォーラムが開催され，コスタリカからはゴンサレス外相が出席した。同フォーラムでは，共同声明が採択され，自然災害の危機管理及び事前予防や安全保障といったテーマで，南南協力や三角協力などの地域協力を行う重要性が確認された。パチェレ・チリ大統領，バレーラ・パナマ大統領の他，ベリーズ，エルサルバドルなどから外相が出席した。

(2) イベロアメリカ外相会合

12月7日，イベロアメリカ外相会合が議長国であるグアテマラで開催され，コスタリカからはゴンサレス外相が出席。ゴンサレス外相はスピーチで，開発のための国際協力の枠組みから，コスタリカのような中進国が閉め出されてしまうことに

に対する懸念を表明した。

会合の最後に、持続可能な開発目標を推し進めることの重要性を強調したアンテグア宣言が採択された。ゴンサレス外相は、ダスティス・スペイン外相と会談を行った。

(3) 第8回イタリア・ラテンアメリカ会議

12月13日、ゴンサレス外相はイタリアで開催された第8回イタリア・ラテンアメリカ会議に出席。ゴンサレス外相はコスタリカのような中進国が抱える気候的な脆弱さの問題やその影響についてスピーチを行った。

(4) SICA首脳会合・外相会合

12月13日、パナマシティにおいてSICA外相理事会が開催され、コスタリカを代表してソラーノ外相代行が出席した。理事会では2018年度SICA事務局予算が承認されたほか、地域協力の効率化のためのアクション・プランが採択された。ソラーノ外相代行は、中米統合における5本柱に優先的戦略アジェンダを立ち上げることの重要性を強調した。

翌14日にはSICA首脳会合が開催され、ソリス大統領が出席した。